

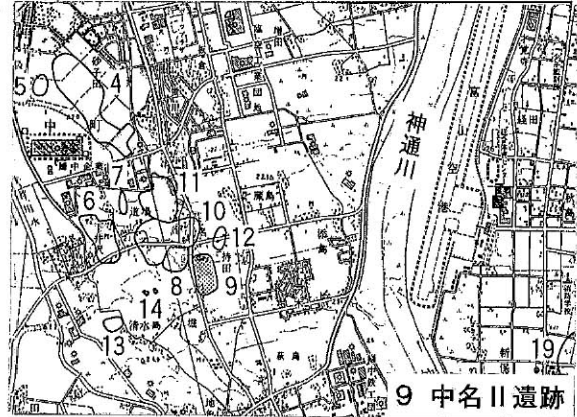
なかのみょう

中名Ⅱ遺跡

～鎌倉時代と戦国時代の集落跡～

遺跡は、富山市婦中町中名地内にあり、神通川と井田川に挟まれた標高約 24m の微高地に位置します。近くには中名Ⅰ・Ⅴ遺跡や持田Ⅰ・Ⅱ遺跡など古代～中・近世の遺跡が密集しています。これらの遺跡の中心には延喜式内社の熊野神社があり、この地域は熊野地区と呼ばれています。

県営公害防除特別土地改良事業に伴い、平成6(1994)年度に当時の婦中町教育委員会と富山県埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われました。



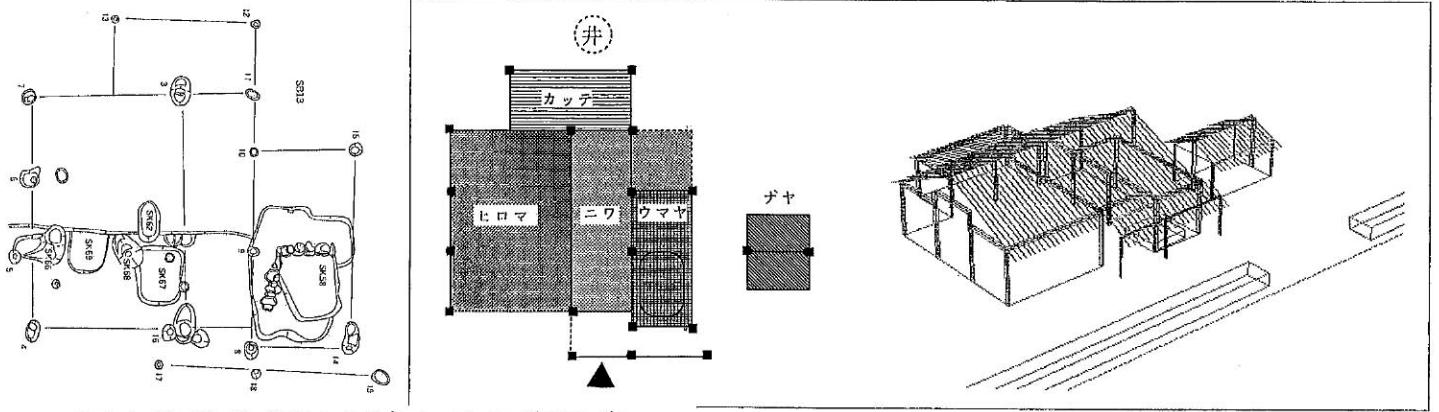
発掘された遺構

鎌倉時代(12～13世紀)では、掘立柱建物が14棟、井戸1基、溝8条、土坑、柵状遺構が発掘されました。掘立柱建物の1棟には庇の内側に木組みの井戸が配置され、井戸底には水溜用の曲物が据えられていました。掘立柱建物は、調査区の中で標高が高く安定した場所に規模が大きく母屋的な性格の建物が分布し、標高の低い部分には、規模が小さく小屋的な性格の建物が分布していました。集落の東西には、敷地を区画する溝が掘られていました。**戦国時代**(15～16世紀)では、掘立柱建物が27棟、井戸13基、土坑・溝が多数発掘され、道路跡も2箇所を確認されました。建物は遺跡の西半部にみられ、区画溝や道によって計画的に配置されていました。建物内に土坑をもち、炭や焼土が広がる工房跡や馬小屋と思われる付属施設も確認されています。井戸はいずれも石組み井戸です。道路跡としては集落を南北に貫く幹線道路的な性格の道と、東側から集落に入るための道が確認されました。

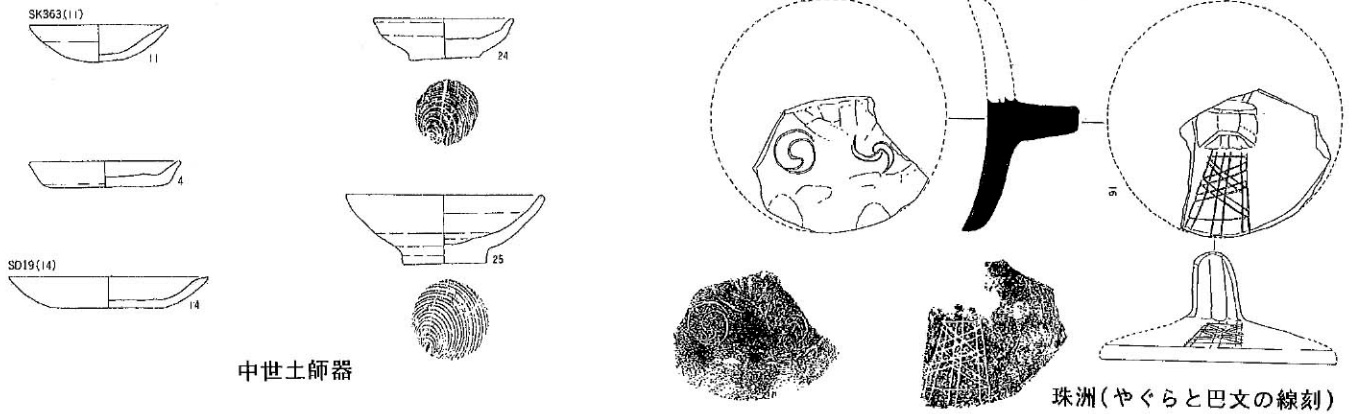
出土した遺物

出土した遺物には、中世土師器や八尾、珠洲、越前、瀬戸美濃、中国製の青磁など陶磁器、フイゴ羽口、鉄製品(釘・刃子・鉄滓)、石製品(砥石・硯・石臼・五輪塔)、漆器(椀)などがあります。瀬戸の灰釉瓶子は井戸(SE06)から出土し、胴部を欠くもののほぼ完形品です。胴部と肩部には漆直しの跡がみられます。13世紀中頃の遺物と考えられますが、井戸の時期は16世紀であるため、瓶子は伝世されたものが井戸に廃棄されたと推測されます。珠洲は壺・甕・すり鉢などが出土し、12～13世紀に属するものと15～16世紀に属するものとに大別されます。このほか特殊な容器の蓋と考えられるものが1点出土しました。外面には取っ手が付き、体部の2方向にヘラでやぐら状の文様が描かれています。内面にはヘラで巴文が描かれています。この蓋は他に類例がなく断定はできませんが、特別な容器の蓋と推測されます。

中名Ⅱ遺跡の鎌倉時代の集落は、建物群が4つのグループに分けられ、それぞれ離れて立地し、散村的な様相を示しています。ところが戦国時代には一変し、主要な道路に沿って計画的に集村する形に変化します。



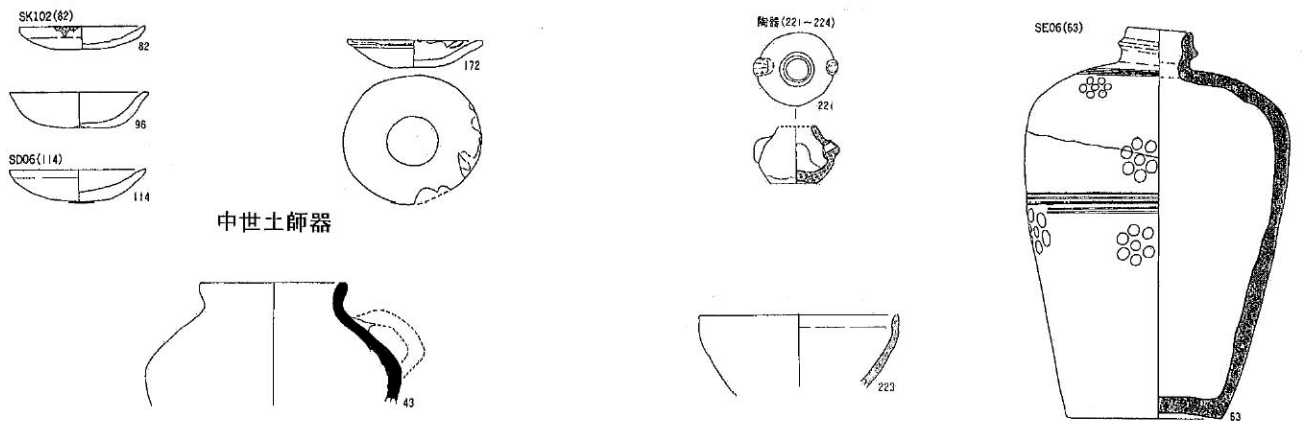
掘立柱建物(SB13)とその復元案



中世土師器

珠洲(やぐらと巴文の線刻)

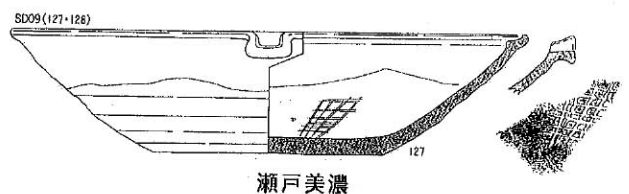
鎌倉時代の出土遺物



中世土師器



珠洲



瀬戸美濃

戦国時代の出土遺物

参考文献

婦中町教育委員会 1995『富山県婦中町中名Ⅱ遺跡発掘調査報告書』

婦中町 1997『婦中町史』資料編

